平成２１年１月９日
地震調査研究推進本部
地震調査委員会

２００８年１２月の地震活動の評価

１．主な地震活動

目立った活動はなかった。

２．各地方別の地震活動

（１）北海道地方

目立った活動はなかった。

（２）東北地方

○　12 月 15 日に三陸沖（海溝軸付近）でマグニチュード（M）5.2 の地震が発生した。この地震は太平洋プレート内部で発生した地震と考えられる。この地震の発震機構は北東－南西方向に圧力軸を持つ逆断層型であった。

○　12 月４日に三陸沖で M6.1 の地震が発生した。この地震の発震機構は西北西－東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した地震である。その後、４日、６日、18 日にそれぞれ M5.5 の地震が発生するなど、一時的に地震活動が活発になったが、減衰してきている。

○　12 月７日に宮城県中部の深さ約 15km で M4.3 の地震が発生した。この地震の発震機構は東西方向に圧力軸を持つ逆断層型で、地殻内で発生した地震である。

（３）関東・中部地方

○　12 月 20 日に関東東方沖で M6.6 の地震が発生した。この地震は太平洋プレートと陸のプレートの境界付近で発生した地震である。この地震の発震機構は東西方向に圧力軸を持つ逆断層型であった。この地震に伴い、岩手県と宮城県の太平洋沿岸で小さな津波を観測した。その後、21 日に M6.2 の地震が発生するなど、一時的に地震活動が活発になったが、現在は収まりつつある。

○　東海地方のＧＰＳ観測結果等には特段の変化は見られない。

（４）近畿・中国・四国地方

目立った活動はなかった。

（５）九州・沖縄地方

目立った活動はなかった。

補足

○　１月３日に福島県沖の深さ約 50km で M4.8 の地震が発生した。この地震の発震機構は西北西－東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した地震である。

○　１月４日 04 時 43 分（日本時間）にインドネシア・ニューギニア島付近で M7.6 の地震が発生した。この地震により、父島と和歌山県串本町で 0.4m など、伊豆・小笠原諸島、関東地方から九州地方にかけての太平洋沿岸及び南西諸島で津波を観測した。また、同日 07 時 33 分（日本時間）にもほぼ同じ場所で M7.4 の地震が発生した。

２００８年１２月の地震活動の評価についての補足説明

平成 21 年 1 月 9 日
地震調査委員会

１　主な地震活動について

2008 年 12 月の日本およびその周辺域におけるマグニチュード（M）別の地震の発生状況は以下のとおり。

M4.0 以上および M5.0 以上の地震の発生は、それぞれ 89 回（11 月は 61 回）および 21 回(11 月は２回)であった。また、M6.0 以上の地震の発生は３回で、2008 年は 20 回発生した。

(参考)　M4.0 以上の月回数 73 回（1998-2007 年の 10 年間の中央値）、
M5.0 以上の月回数９回（1973-2007 年の 35 年間の中央値）、
M6.0 以上の月回数 1.4 回、年回数約 17 回（1924-2007 年の 84 年間の平均値）

2007 年 12 月以降 2008 年 11 月末までの間、主な地震活動として評価文に取り上げたものは次のものがあった。

- 石川県能登地方　2008 年１月 26 日 M4.8（深さ約 10km）
- 茨城県沖　2008 年５月８日 M7.0
- 岩手・宮城内陸地震　2008 年６月 14 日 M7.2（深さ約 10km）
- 茨城県沖　2008 年７月５日 M5.2（深さ約 50km）
- 沖永良部島付近　2008 年７月８日 M6.1（深さ約 45km）
- 福島県沖　2008 年７月 19 日 M6.9
- 岩手県中部　2008 年７月 24 日 M6.8（深さ約 110km）
- 十勝沖　2008 年９月 11 日 M7.1

２　各地方別の地震活動

（１）北海道地方

北海道地方では特に補足する事項はない。

（２）東北地方

「12 月７日に宮城県中部の深さ約 10km で M4.3 の地震が発生した。（以下、略）」:

今回の地震は、2003 年７月 26 日に発生した M6.4（最大震度６強）の地震の余震域内で発生した。

（３）関東・中部地方

「12 月 20 日に関東東方沖で M6.6 の地震が発生した。（以下、略）」

気象庁では、12 月 20 日の地震(M6.6)は関東東方沖、12 月 21 日の地震(M6.2)は福島県沖として情報発表を行っている。

「東海地方のＧＰＳ観測結果等には特段の変化は見られない。」:

（なお、これは、12 月 22 日に開催された地震防災対策強化地域判定会委員打合せ会における見解（参考参照）と同様である。）

(参考)最近の東海地域とその周辺の地震･地殻活動(平成 20 年 12 月 22 日気象庁地震火山部)
「現在のところ、東海地震に直ちに結びつくような変化は観測されていません。
１．地震活動の状況

全般的には顕著な地震活動はありません。

静岡県中西部のフィリピン海プレート内ではマグニチュード 3.5 以上の地震の発生頻度は引き続き少ない状態ですが、より小さい地震まで見ると活発な状態になっています。また、浜名湖周辺のフィリピン海プレート内でも地震の発生頻度が引き続きやや少ない状態になっています。一方、静岡県中西部の地殻内では地震活動がやや活発な状態が続いています。その他の地域では概ね平常レベルです。

２．地殻変動の状況

全般的には注目すべき特別な変化は観測されていません。

GPS 観測及び水準測量の結果では、御前崎の長期的な沈降傾向はこれまでと同様に継続しています。」

（４）近畿・中国・四国地方

近畿・中国・四国地方では特に補足する事項はない。

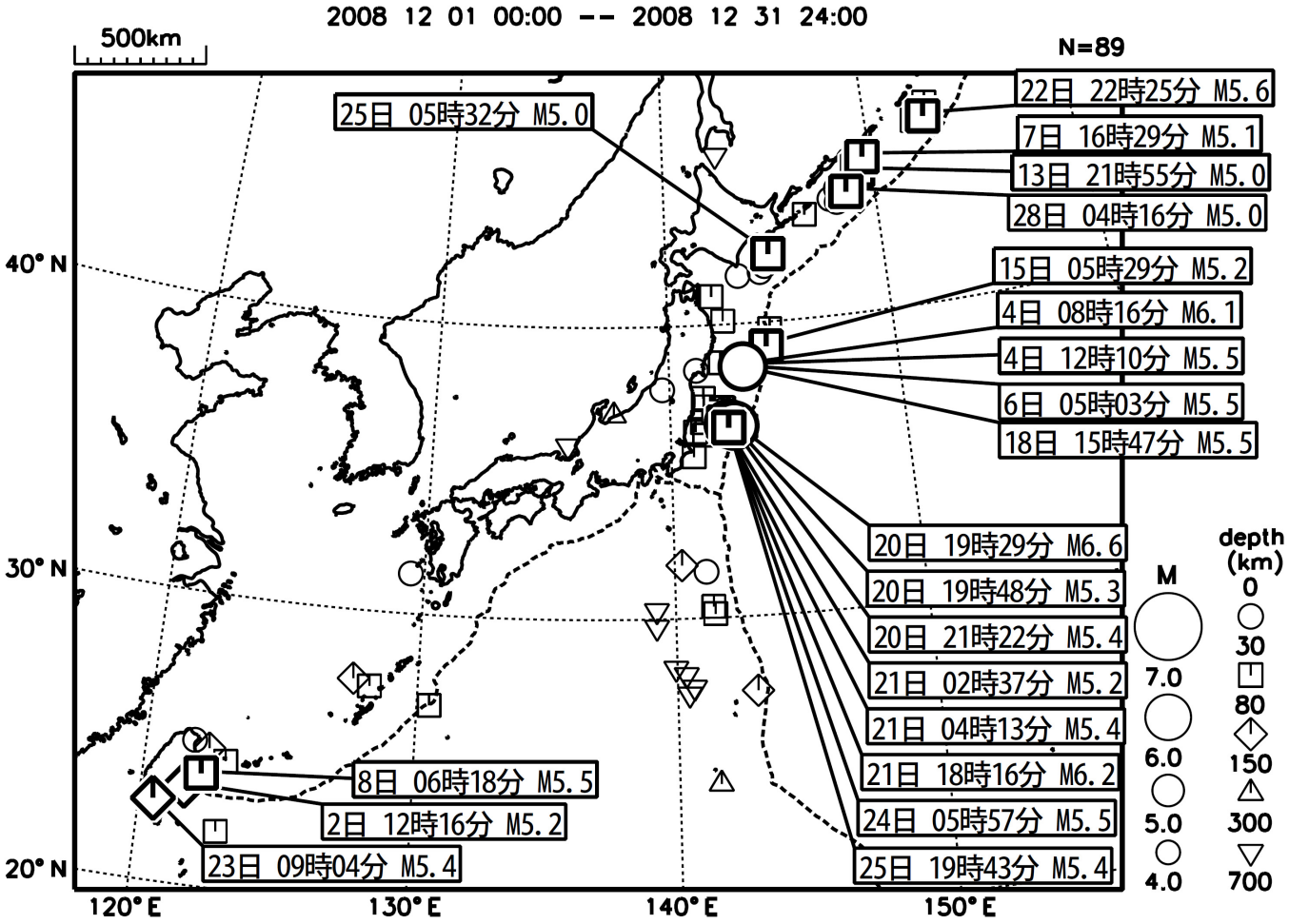
（５）九州・沖縄地方

九州・沖縄地方では特に補足する事項はない。

参考１　「地震活動の評価」において掲載する地震活動の目安
①M6.0 以上または最大震度が４以上のもの。②内陸 M4.5 以上かつ最大震度が３以上のもの。
③海域 M5.0 以上かつ最大震度が３以上のもの。

参考２　「地震活動の評価についての補足説明」の記述の目安
１　「地震活動の評価」に記述された地震活動に係わる参考事項。
２　「主な地震活動」として記述された地震活動（一年程度以内）に関連する活動。
３　評価作業をしたものの、活動が顕著でなく、かつ、通常の活動の範囲内であることから、「地震活動の評価」に記述しなかった活動の状況。

2008 年 12 月の全国の地震活動
（マグニチュード 4.0 以上）



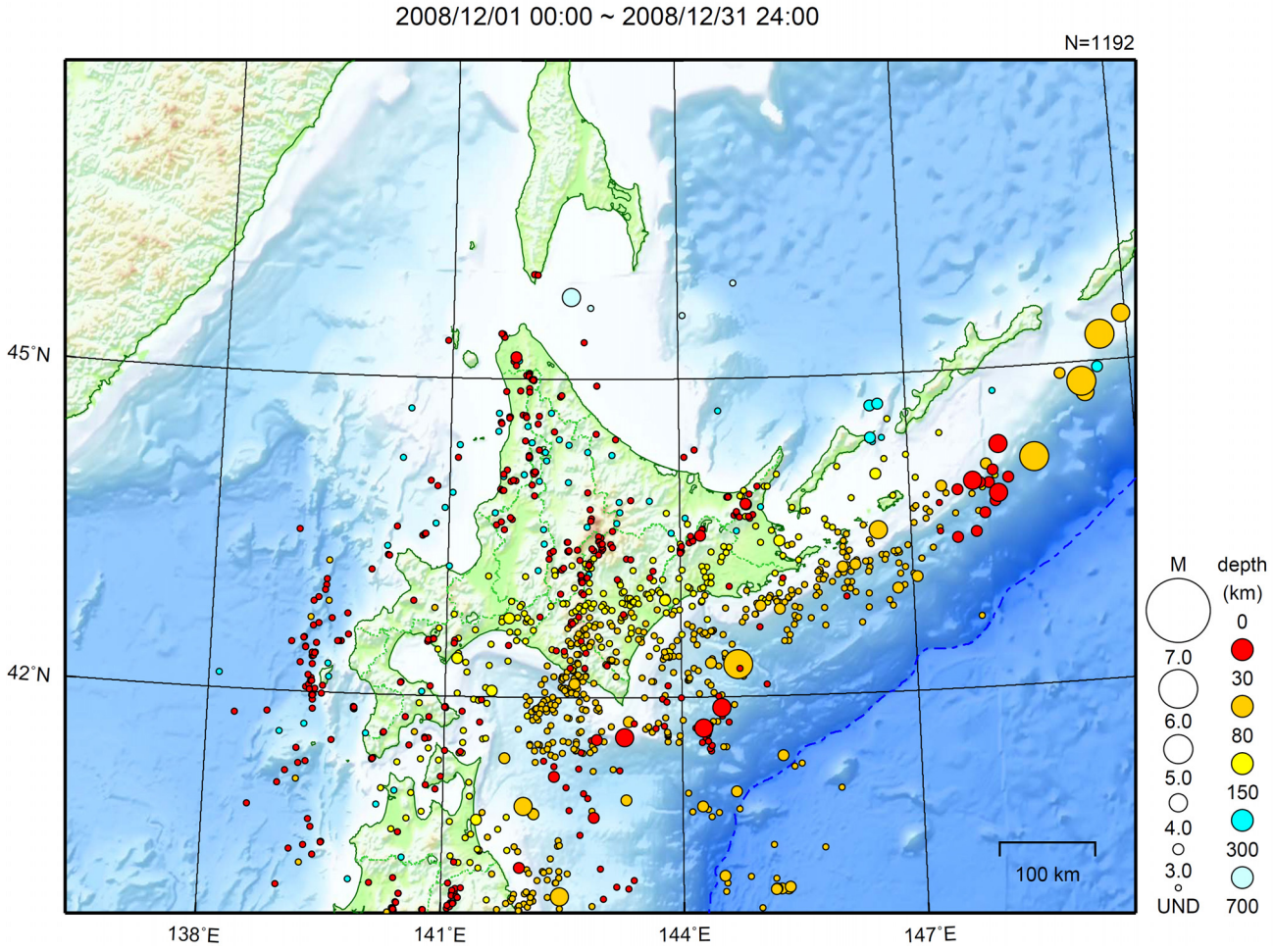
12 月 4 日に三陸沖で M6.1（最大震度３）の地震が発生した。

12 月 20 日に関東東方沖で M6.6 の地震、21 日に福島県沖で M6.2 の地震（共に最大震度３）が発生した。

［図中に日時分、マグニチュードを付した地震は M5.0 以上の地震、または M4.0 以上で最大震度 5 弱以上を観測した地震である。また、上に表記した地震は M6.0 以上、または M4.0 以上で最大震度 5 弱以上を観測した地震である。］

気象庁・文部科学省（気象庁作成資料には、防災科学技術研究所や大学等関係機関のデータも使われています）

北海道地方



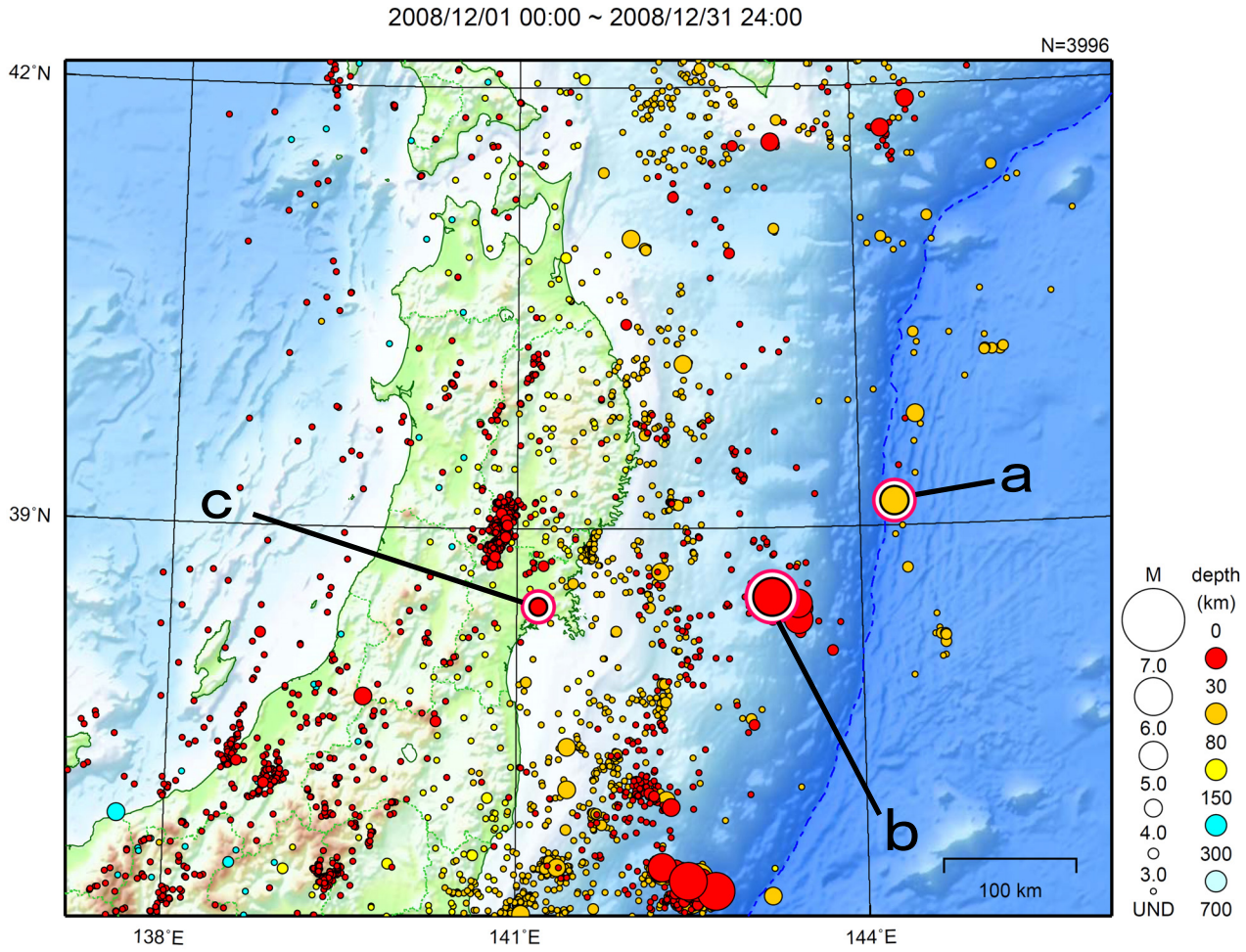
地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOPO30、及び米国国立地球物理データセンターの ETOPO2v2 を使用

特に目立った活動はなかった。

［上述の地震は M6.0 以上または最大震度４以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度３以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度３以上のいずれかに該当する地震。］

気象庁・文部科学省

東北地方



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOPO30、及び米国国立地球物理データセンターの ETOPO2v2 を使用

a）12 月 15 日に三陸沖で M5.2（最大震度３）の地震が発生した。
b）12 月４日に三陸沖で M6.1（最大震度３）の地震が発生した。
c）12 月７日に宮城県中部で M4.3(最大震度４)の地震が発生した。

（上記期間外）
１月３日に福島県沖で M4.8（最大震度４）の地震が発生した。

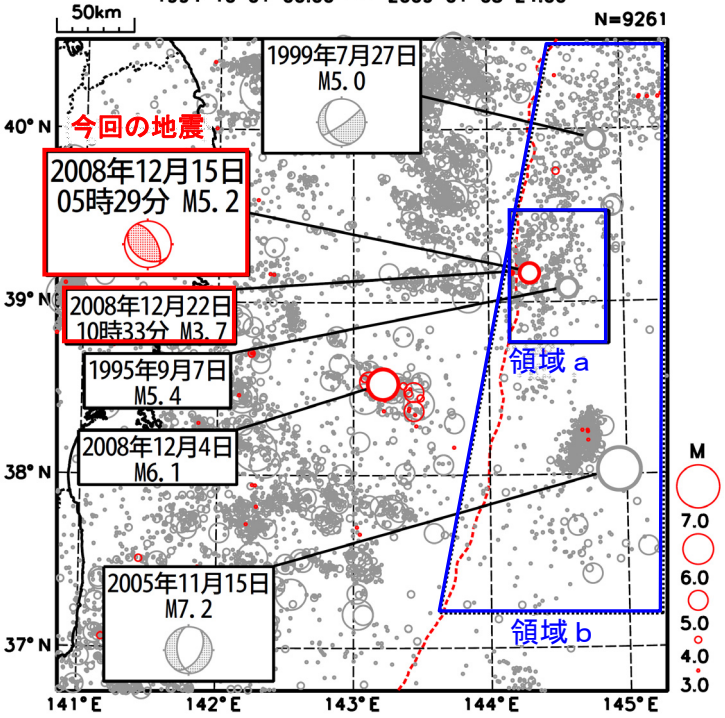
［上述の地震は M6.0 以上または最大震度４以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度３以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度３以上のいずれかに該当する地震。］

気象庁・文部科学省

12 月 15 日　三陸沖の地震（海溝軸付近）

震央分布図（1994 年 10 月以降、M≧3.0、深さ 100km 以浅 ）

※発震機構は CMT 解である。また、12 月 1 日以降の地震を濃く表示

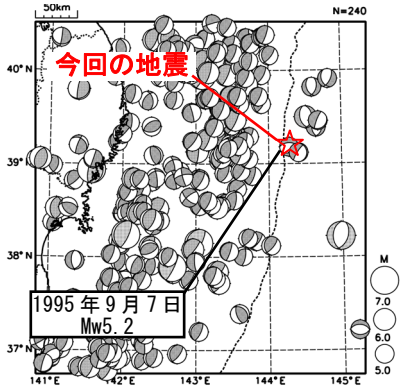


2008 年 12 月 15 日 05 時 29 分に三陸沖（海溝軸付近）で M5.2（最大震度３）の地震が発生した。この地震は太平洋プレート内部で発生した地震と考えられる。発震機構は北東－南西方向に圧力軸を持つ逆断層型であった。余震は 22 日 10 時 33 分に M3.7 の地震（震度１以上の観測なし）が発生したものの、活動は低調である。

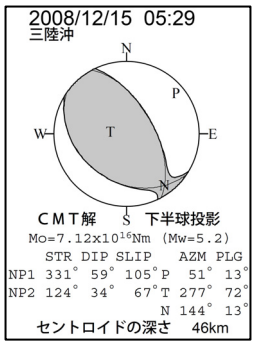
1994 年 10 月以降の活動を見ると、今回の地震の震央付近（領域ａ）では、M4.0 を超える地震は時々発生しているが、M5.0 を超える地震は 1995 年９月７日の M5.4（震度１以上の観測なし）の地震以来である。なお、海溝軸から東の領域（領域ｂ）の活動を見ると、2005 年 11 月 15 日に M7.2（最大震度３、大船渡で 42cm の津波を観測）の地震が発生している。

上図領域内の発震機構

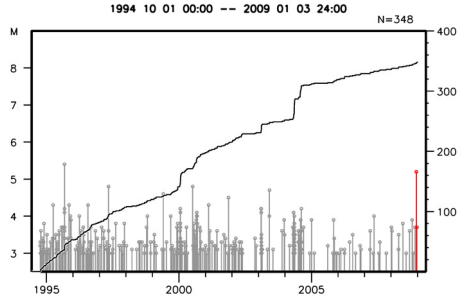
（1980 年以降、Global CMT による）



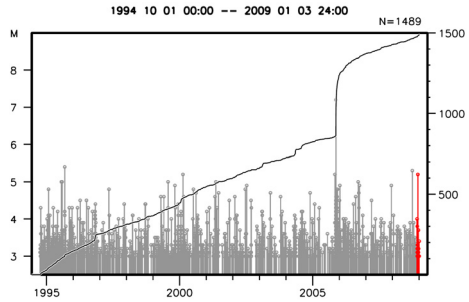
今回の地震の発震機構



領域 a 内の地震活動経過図、回数積算図

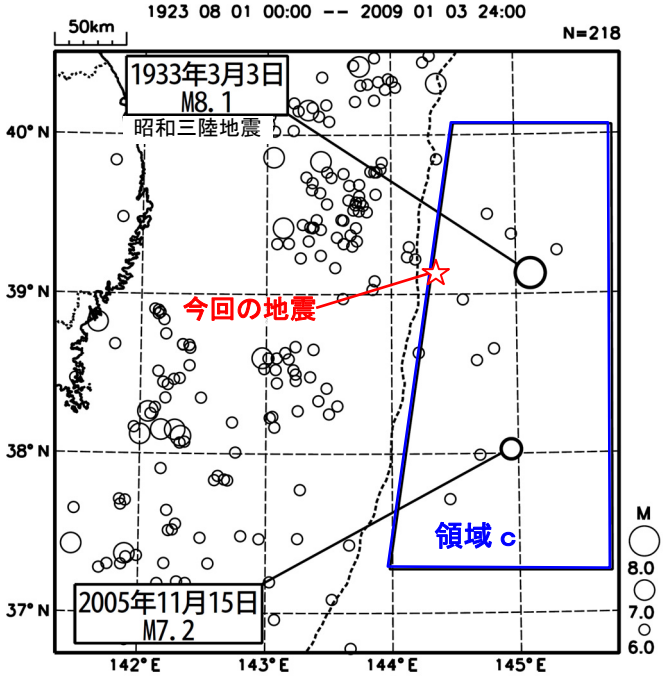


領域 b 内の地震活動経過図、回数積算図



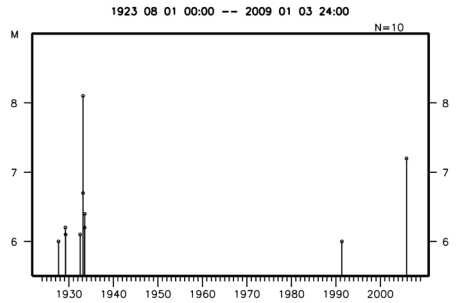
震央分布図

（1923 年８月以降、M≧6.0、深さ 100km 以浅）



1923 年８月以降の海溝軸から東側の領域（領域ｃ）の活動を見ると、1933 年３月３日に M8.1 の地震（昭和三陸地震）、2005 年 11 月 15 日に M7.2 の地震が発生しているものの、ほかに目立った活動はみられない。

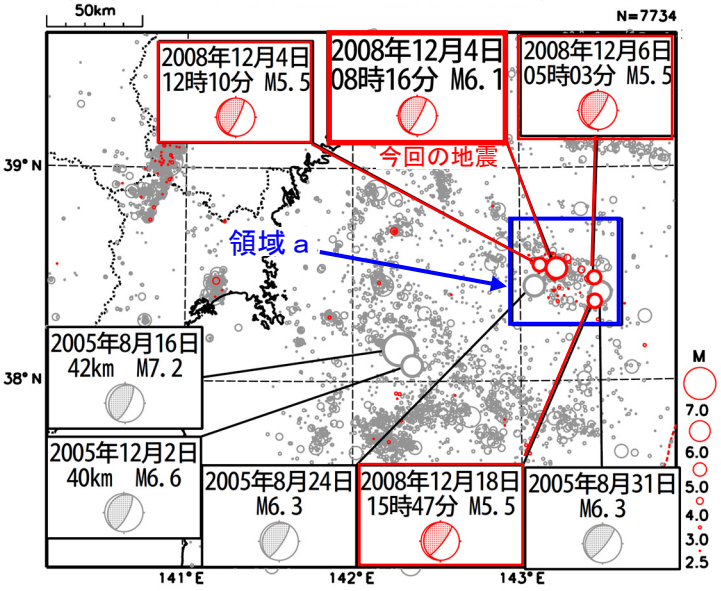
領域 c 内の地震活動経過図



気象庁作成

12 月 4 日　三陸沖の地震

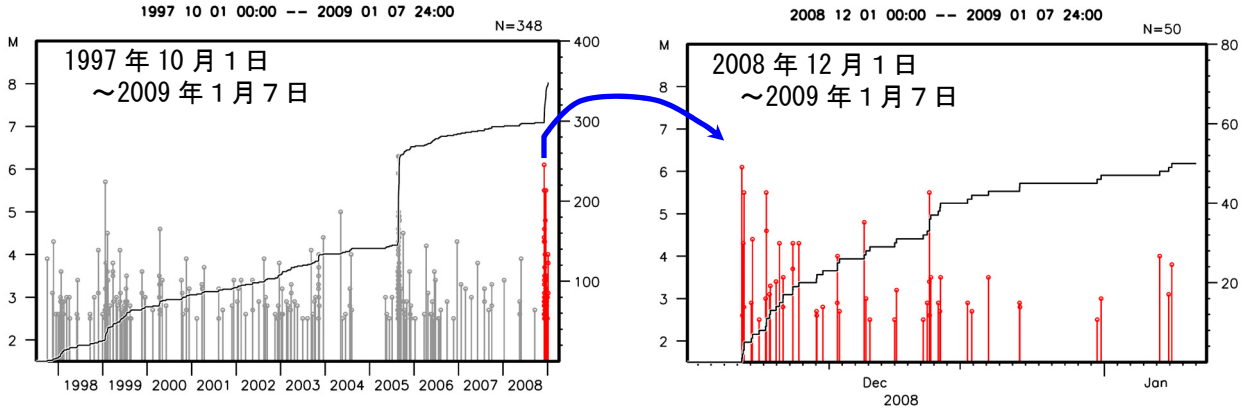
震央分布図（1997 年 10 月以降、M≧2.5、深さ 100km 以浅 ）
※発震機構は CMT 解である。また、12 月 1 日以降の地震を濃く表示した。



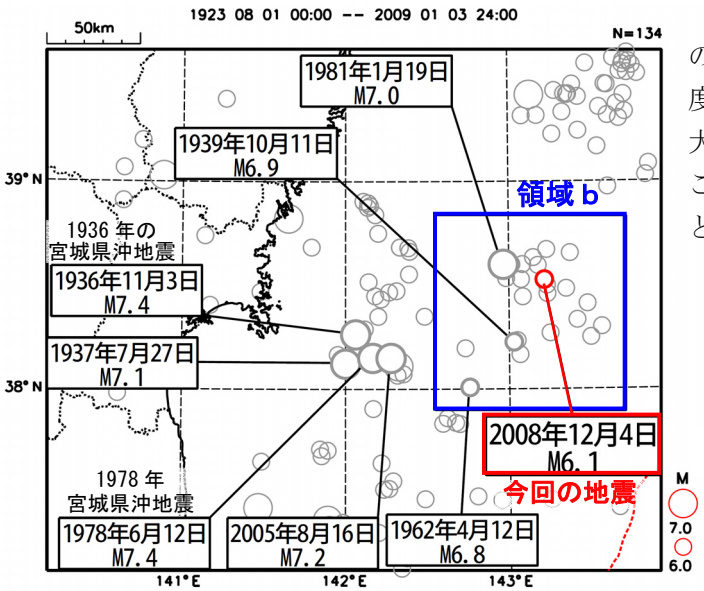
2008 年 12 月 4 日 08 時 16 分に三陸沖で M6.1（最大震度３）の地震が発生した。この地震の発震機構は西北西－東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した地震である。地震活動は、4 日 12 時 10 分の地震（最大震度３）を含めて M5.5 の地震が３回発生するなど活発であったが、12 月下旬以降、活動は減衰してきている。

今回の地震の震源付近（領域ａ）は、まとまった地震活動が見られるところで、最近では 2005 年８月 24 日と８月 31 日に、共に M6.3（最大震度３）の地震が発生している。

領域ａ内の地震活動経過図、回数積算図

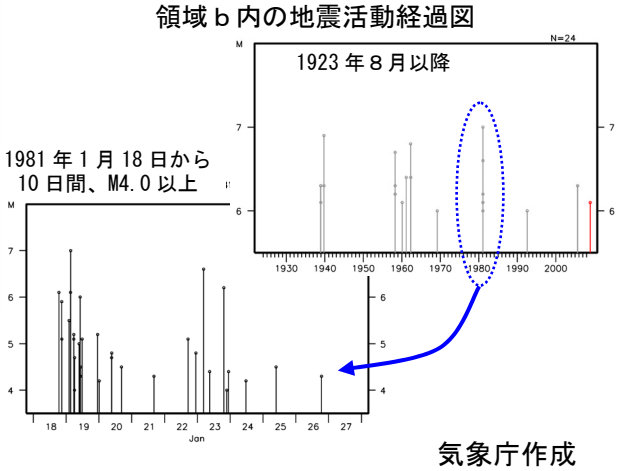


震央分布図（1923 年８月以降、M≧6.0、深さ 150km 以浅）



1923 年８月以降の活動を見ると、今回の地震の震央付近（領域ｂ）では、M6 を超える地震が度々発生しており、1981 年１月 19 日の M7.0（最大震度４、釜石などで 22cm の津波）の地震では、この前後で M6.0 以上の地震が６回発生するなど、活発な地震活動が見られた。

領域ｂ内の地震活動経過図

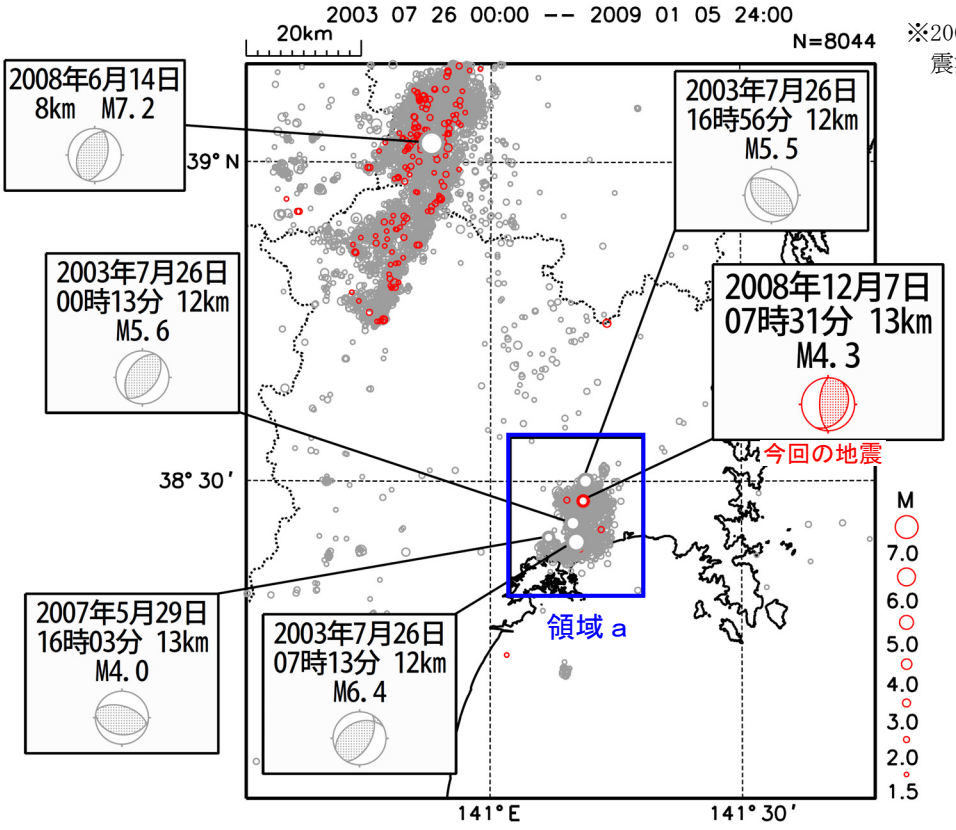


気象庁作成

12 月 7 日　宮城県中部の地震

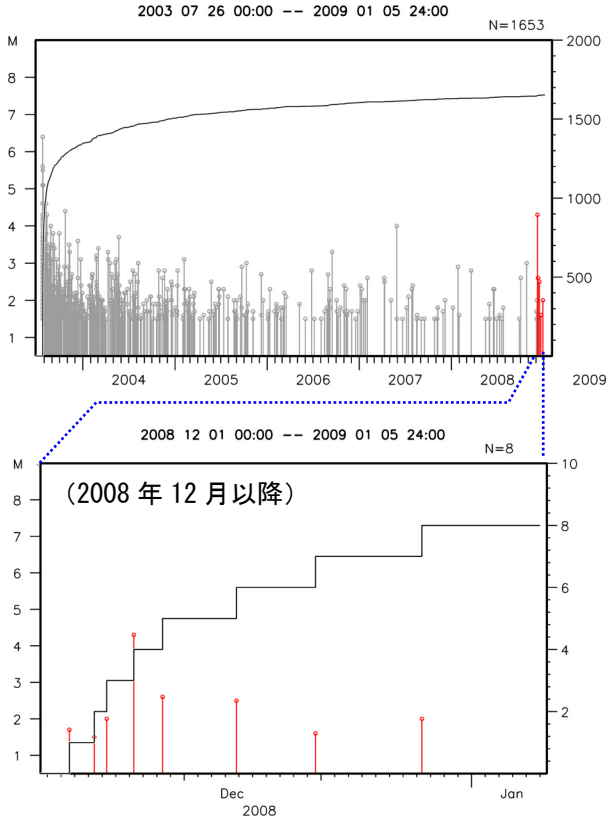
2008 年 12 月 7 日 07 時 31 分に宮城県中部の深さ 13km で M4.3（最大震度４）の地震が発生した。この地震の発震機構は東西方向に圧力軸を持つ逆断層型で、2003 年 7 月 26 日に発生した M6.4 の地震（最大震度６強）の余震域内で発生した。この余震域内で M4.0 以上の地震が発生したのは、2007 年 5 月 29 日の M4.0 の地震（最大震度３）以来であった。

震央分布図（2003 年 7 月 26 日以降、M≧1.5、深さ 20km 以浅 ）



※2008 年 12 月以降の震源を濃く表示した

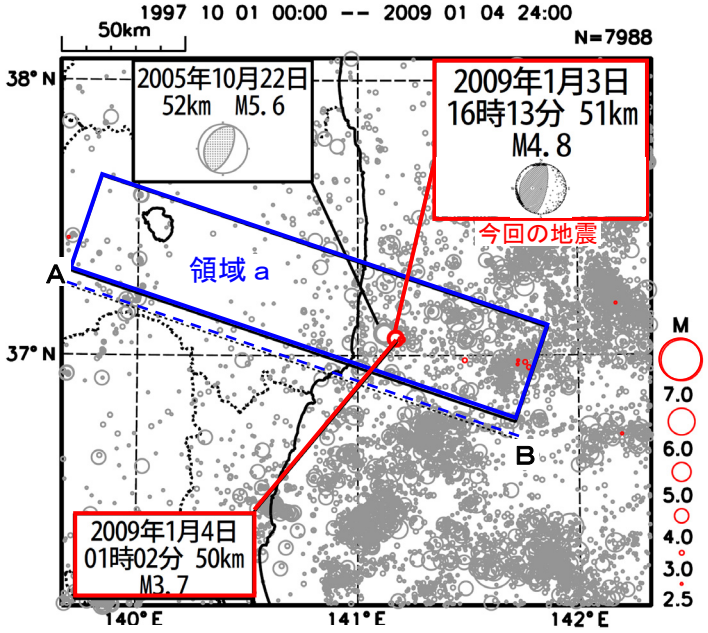
領域 a 内の地震活動経過図、回数積算図



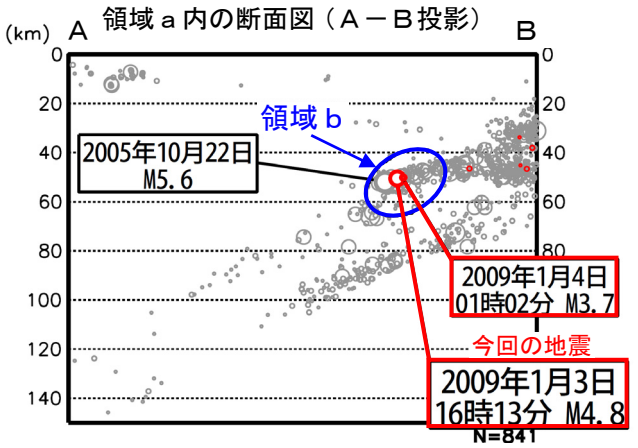
気象庁作成

１月３日　福島県沖の地震

震央分布図（1997 年 10 月以降、M≧2.5、深さ 150km 以浅 ）



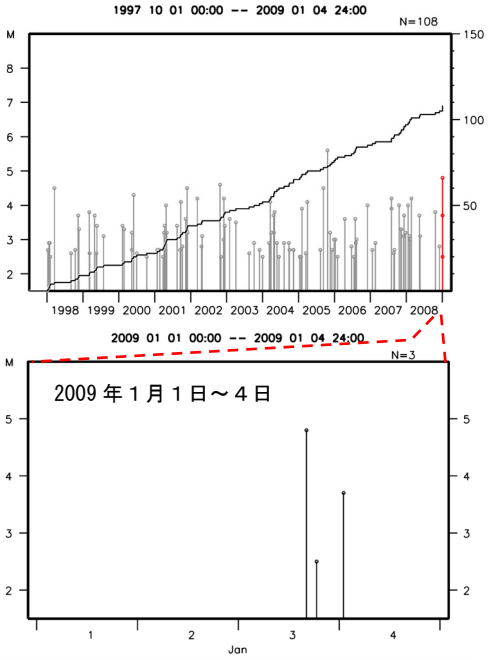
※12 月 1 日以降の地震を濃く表示



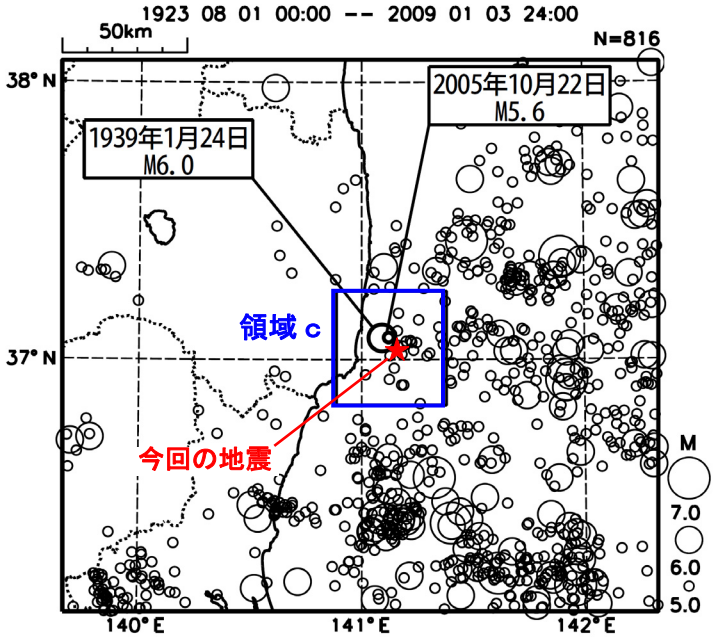
2009 年１月３日 16 時 13 分に福島県沖で M4.8（最大震度４）の地震が発生した。この地震の発震機構は西北西－東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した地震である。最大の余震は４日 01 時 02 分に発生した M3.7 の地震（最大震度２）で、活動は低調である。

今回の地震の震源付近（領域ｂ）では、2005 年 10 月 22 日に M5.6（最大震度４）の地震が発生している。

領域ｂ内の地震活動経過図、回数積算図

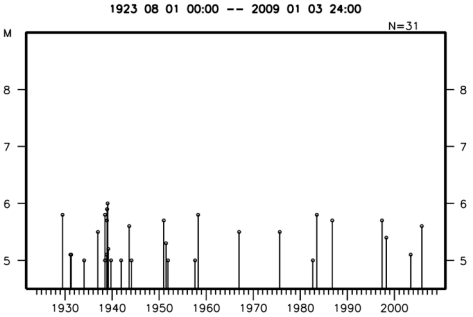


震央分布図（1923 年８月以降、M≧5.0、深さ 100km 以浅）



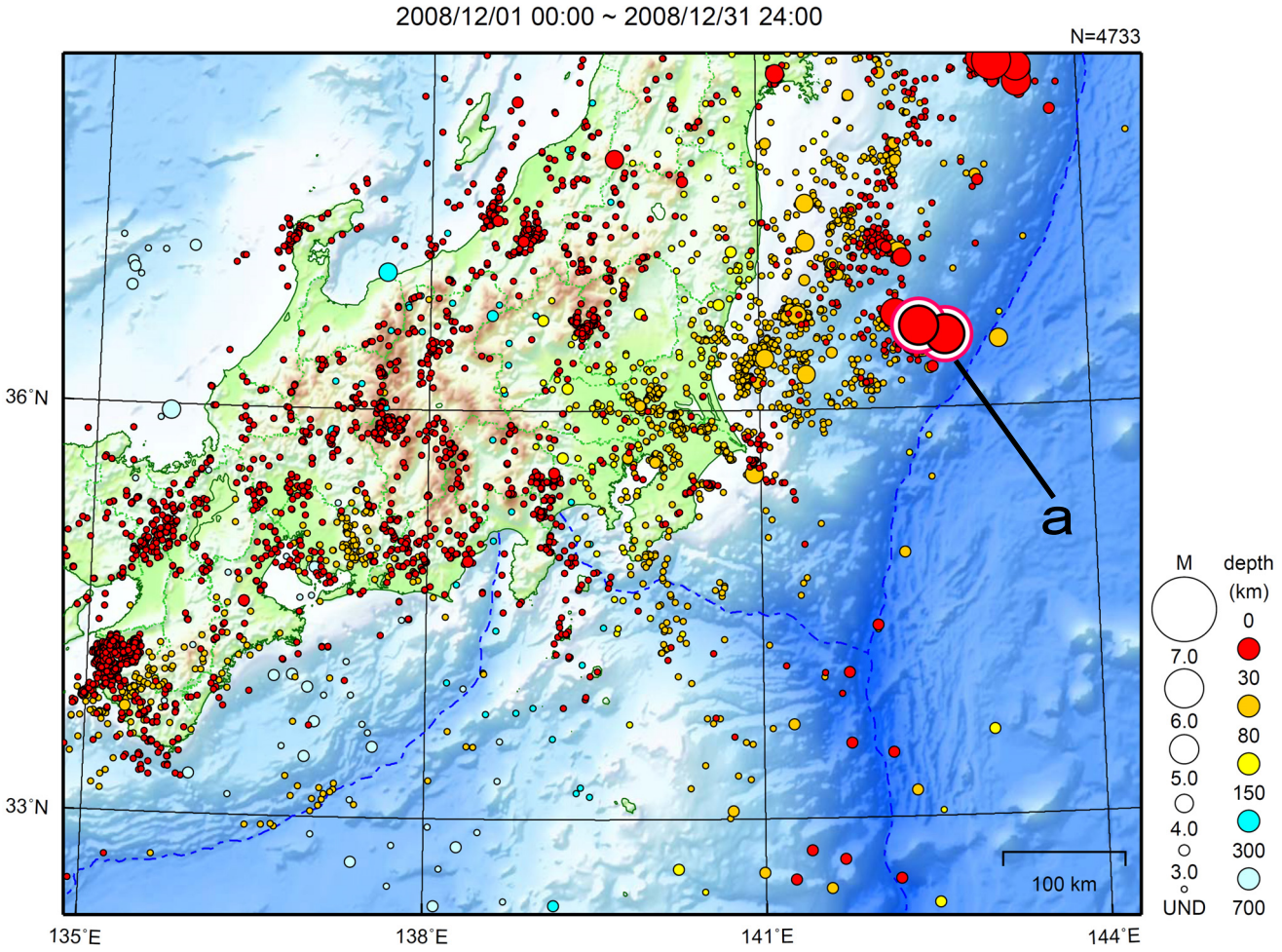
1923 年８月以降の活動を見ると、今回の地震の震央付近（領域ｃ）では M5 を超える地震は時々発生しているが、M6.0 以上の地震は 1939 年１月 24 日の地震（M6.0、最大震度３）のみである。

領域ｃ内の地震活動経過図



気象庁作成

関東・中部地方



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOPO30、及び米国国立地球物理データセンターの ETOPO2v2 を使用

a）12 月 20 日に関東東方沖で M6.6 の地震、21 日に福島県沖で M6.2 の地震（共に最大震度３）が発生した。

［上述の地震は M6.0 以上または最大震度４以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度３以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度３以上のいずれかに該当する地震。］

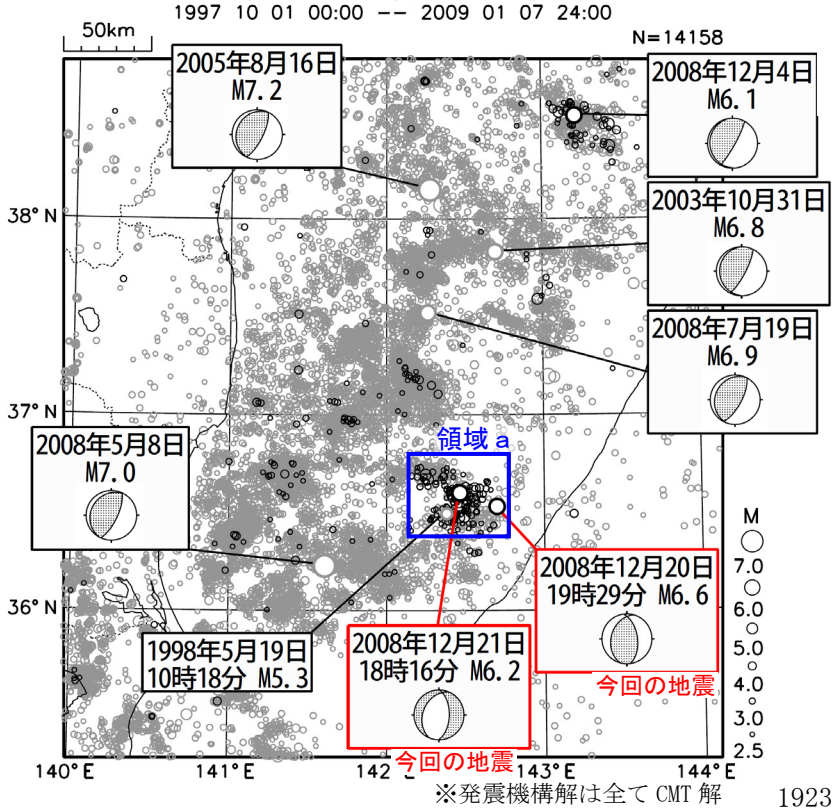
気象庁・文部科学省

12 月 20 日　関東東方沖の地震

2008 年 12 月 20 日 19 時 29 分に関東東方沖で M6.6（最大震度３）の地震が発生した。この地震は太平洋プレートと陸のプレートの境界付近で発生した地震であり、発震機構（CMT 解）は東西方向に圧力軸を持つ逆断層型であった。この地震に伴い、岩手県と宮城県の沿岸で小さな津波を観測した。また、翌 21 日 18 時 16 分に、福島県沖（M6.6 の地震から西北西に約 20km 離れた場所）で M6.2 の地震（最大震度３）が発生した。この地震の発震機構（CMT 解）は東西方向に張力軸を持つ正断層型であった。24 日に M5.5、20 日、21 日、25 日には M5.4 の余震が発生するなど、余震活動は当初活発であったが、現在収まりつつある。

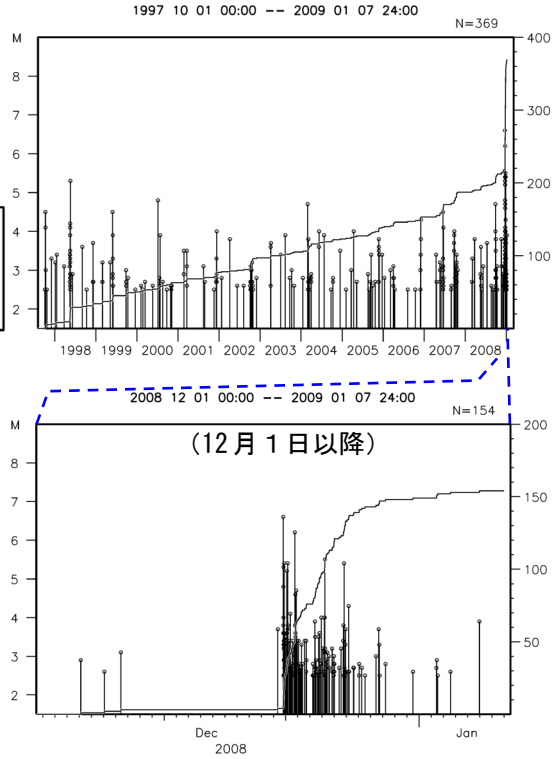
福島県沖から茨城県沖にかけては、2008 年７月 19 日には、今回の地震から北に約 110km 離れた場所で M6.9 の地震（最大震度４）が、また 2008 年５月８日には、今回の地震から南西に約 100km 離れた場所で M7.0（最大震度５弱）の地震が発生している。

震央分布図（1997 年 10 月以降、M≧2.5、深さ 90km 以浅）

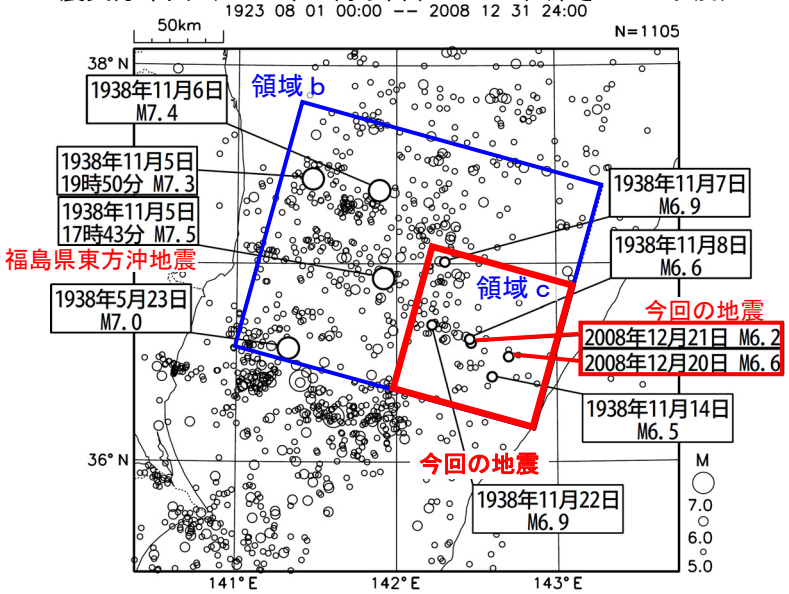


※発震機構解は全て CMT 解

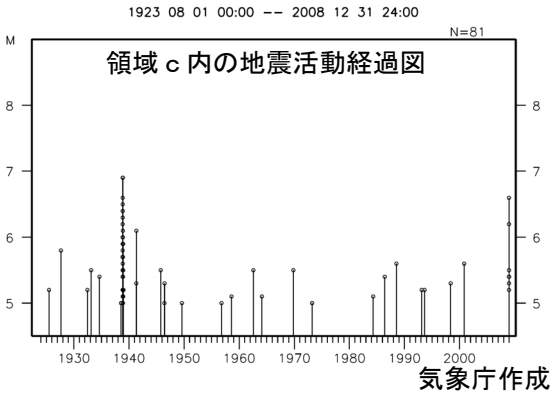
領域ａ内の地震活動経過図、回数積算図



震央分布図（1923 年８月以降、M≧5.0、深さ 90km 以浅）



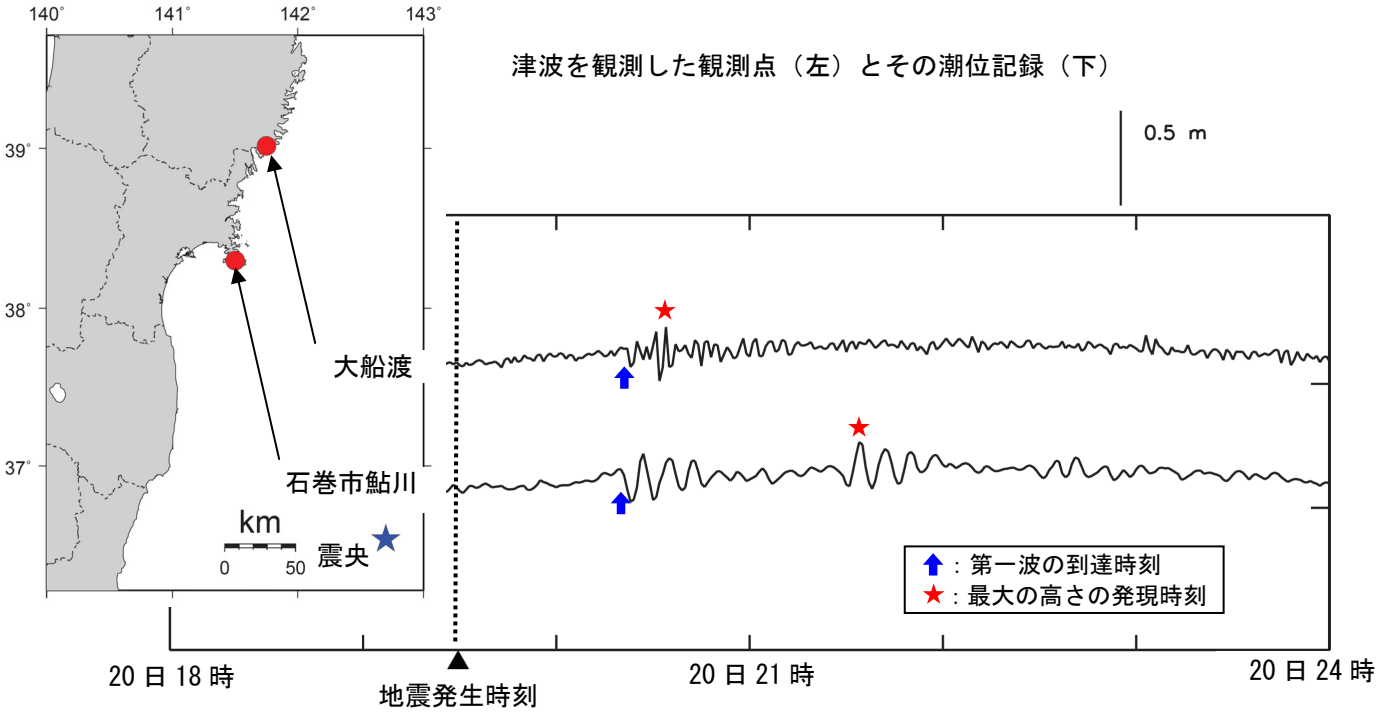
1923 年８月以降の地震活動を見ると、福島県沖（領域ｂ）では、1938 年に 11 月５日の福島県東方沖地震（M7.5）を含む M7.0 を超える地震が４回発生するなど地震活動が活発な時期があった。今回の地震の周辺（領域ｃ）でも、1938 年に地震活動が一時活発になったが、それ以外の期間ではＭ５クラスの地震が時々発生していた程度であった。



気象庁作成

12 月 20 日　関東東方沖の地震の津波

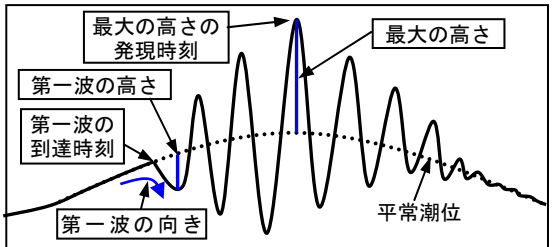
12 月 20 日の関東東方沖の地震（M6.6）により、岩手県の大船渡と宮城県の石巻市鮎川で津波を観測した。以下に観測点の場所、潮位記録及び観測した津波の高さを示す。



観測した津波の高さ※

観測点名	所属	第一波			最大波	
		到達時刻	向き	高さ（cm）	発現時刻	高さ（cm）
大船渡	気象庁	20時22分	引き	8	20時34分	12
石巻市鮎川	気象庁	20時21分	引き	13	21時34分	15

※ 値は速報値であり、後日変更される場合がある。



（参考）津波の測り方の模式

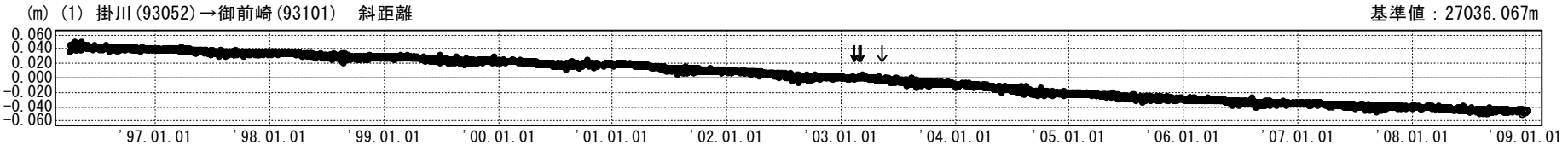
津波の観測値の測り方を示す。第一波の向きは、下方向が「引き（－）」、上方向が「押し（＋）」となる（上の例の場合は「引き」となる）。

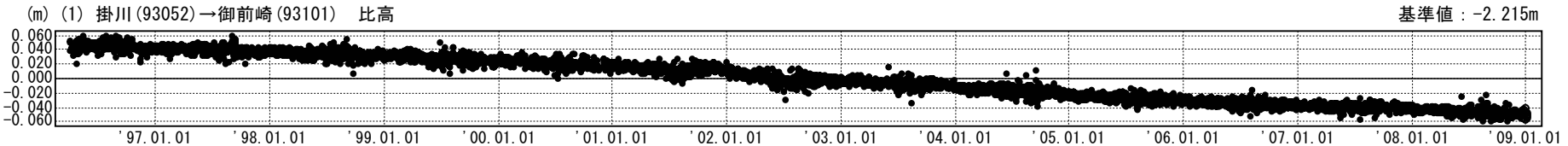
気象庁作成

掛川－御前崎間のGPS連続観測結果(斜距離･比高)

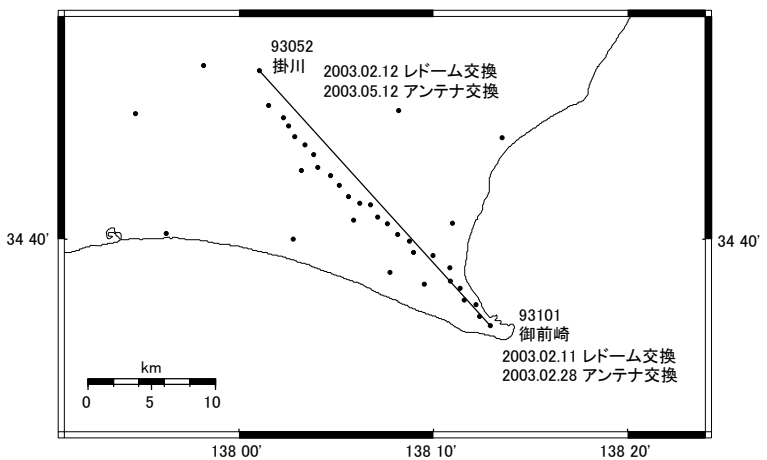
1996年4月からの基線変化グラフ（斜距離・比高）

期間：1996.04.01～2009.01.04 JST



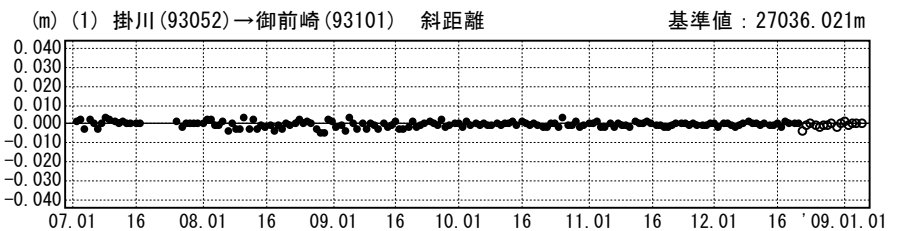


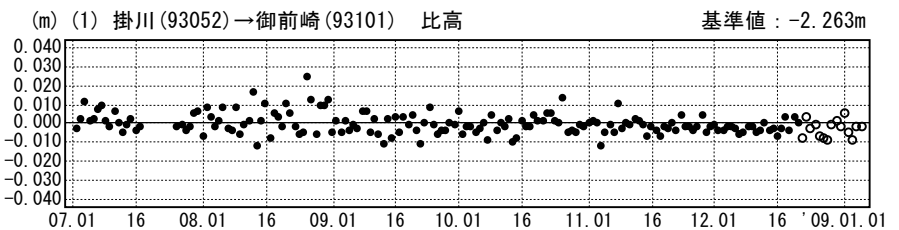
掛川･御前崎 GPS連続観測基線図



最近6ヶ月間の基線変化グラフ（斜距離・比高）

期間：2008.07.01～2009.01.04 JST





●---[F2:最終解] ○---[R2:速報解]

※電子基準点「掛川」の7月17日～7月24日間のデータは,受信機トラブルのため取得されていない.
その他,掛川・御前崎周辺の基線には特段の変化は見られない.

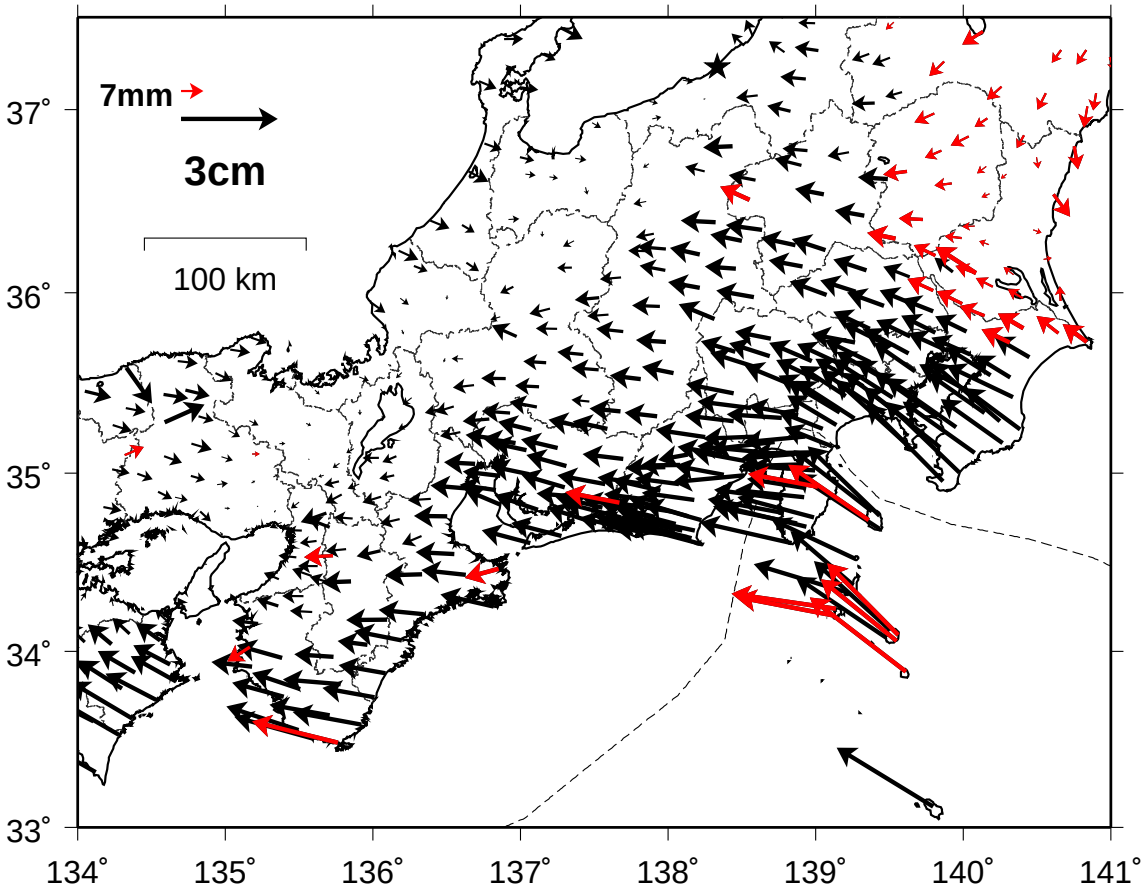
国土地理院

東海地方の最近の地殻変動（水平変動）【大潟固定】

（ 2007 年 12 月～ 2008 年 12 月）

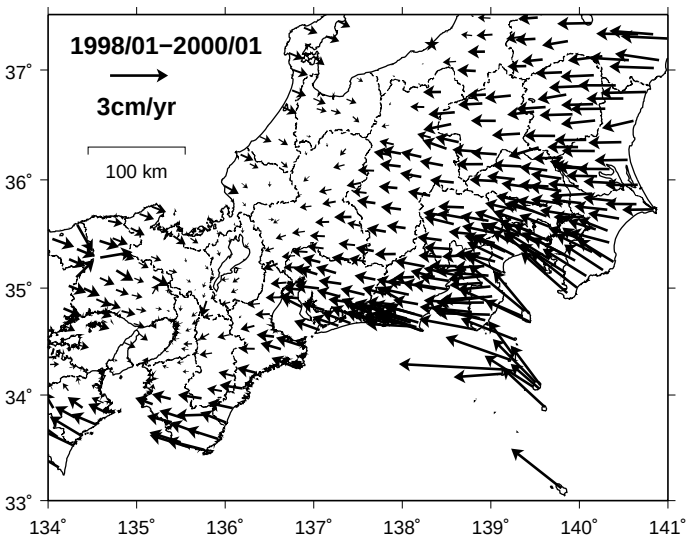
基準期間：2007/12/11 – 2007/12/20 [F2：最終解]

比較期間：2008/12/11 – 2008/12/20 [F2：最終解]

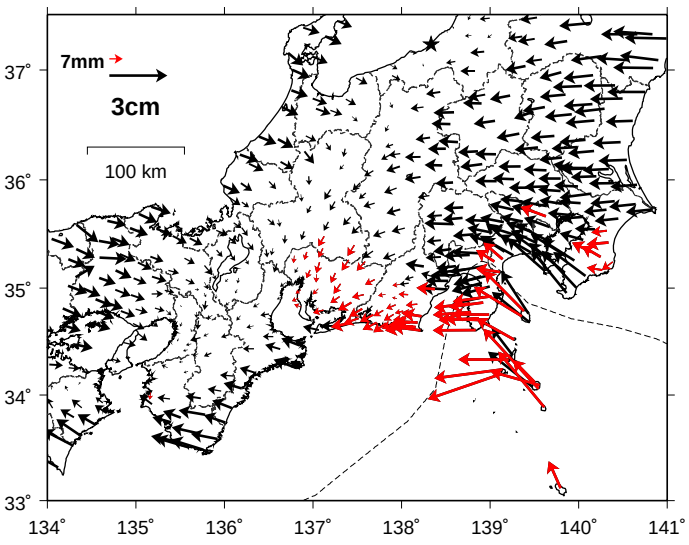


・スロースリップ開始前の変動速度ベクトル（左下図）との差の絶対値が７ mm 以上の変動ベクトルを赤矢印で表示している．

スロースリップ開始以前の地殻変動速度
（１９９８年１月～２０００年１月）



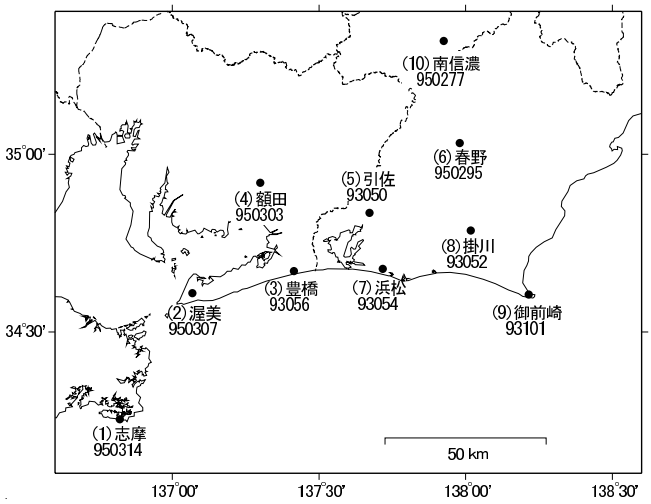
スロースリップ進行期の地殻変動速度
（２００１年１月～２００４年１月）



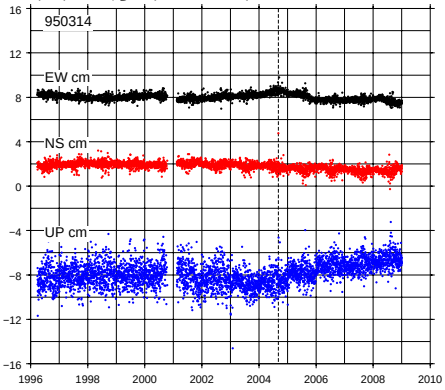
国土地理院

東海非定常地殻変動 時系列【大潟固定】（余効変動除去後）

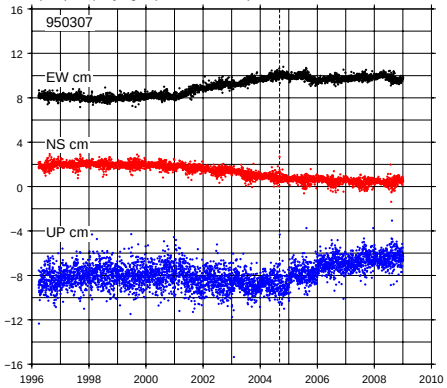
最終解　1996/4/10 – 2008/12/20
速報解　2008/12/21 – 2009/1/3



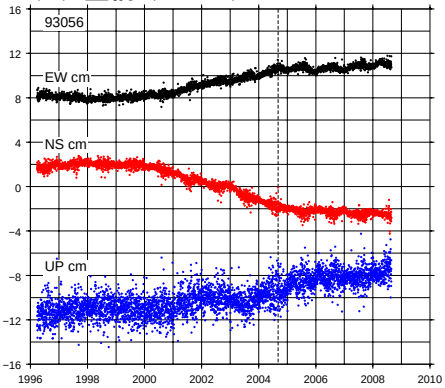
（1）志摩（950314）



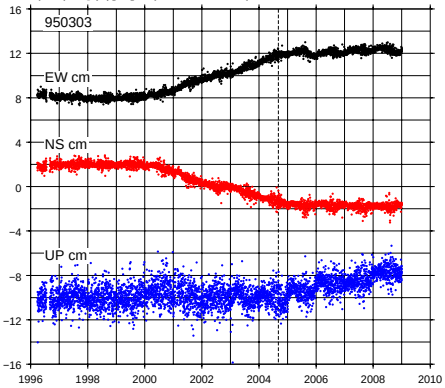
（2）渥美（950307）



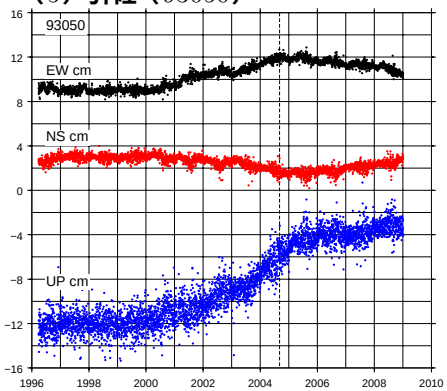
（3）豊橋（93056）



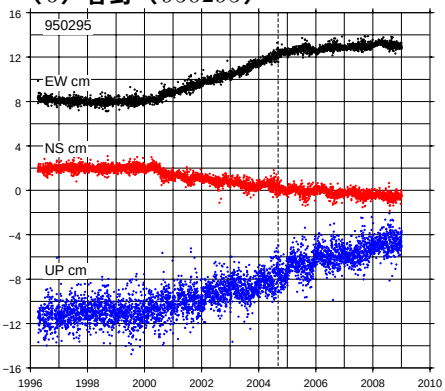
（4）額田（950303）



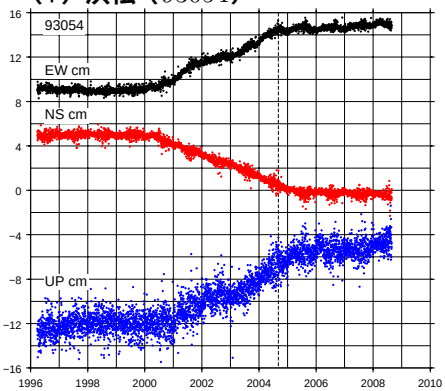
（5）引佐（93050）



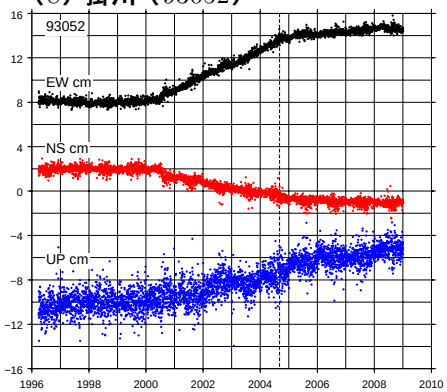
（6）春野（950295）



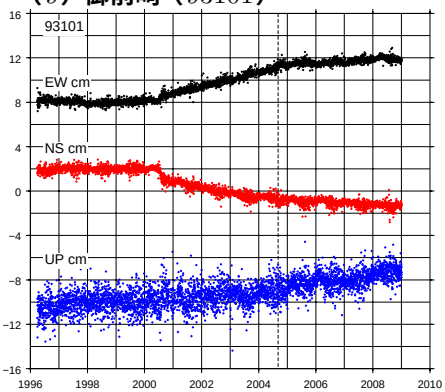
（7）浜松（93054）



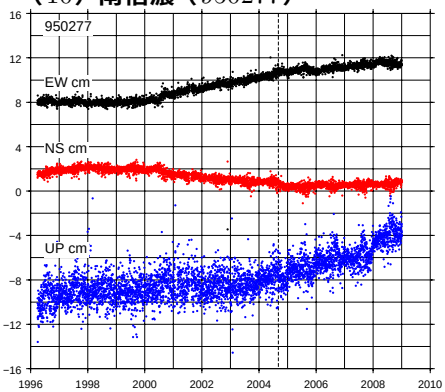
（8）掛川（93052）



（9）御前崎（93101）



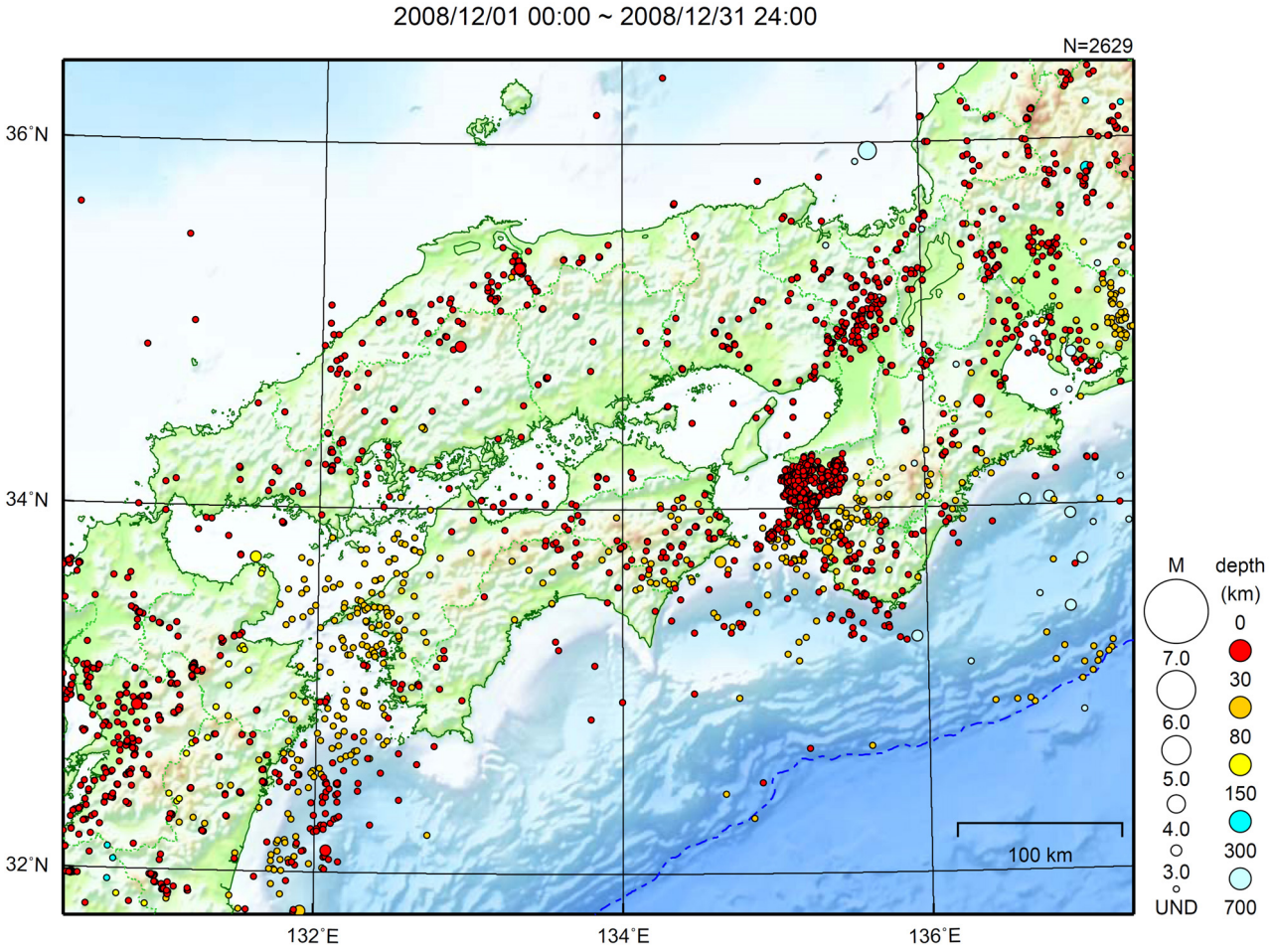
（10）南信濃（950277）



・１９９７年１月～２０００年１月のデータから平均速度を推定して、元の時系列データから除去している。
・１９９８年１月～２０００年１月のデータから年周/半年周成分を推定して、元の時系列データから除去している。
・２００３年以降の上下成分は年周/半年周成分を除去していない。
・２００４年９月５日に発生した紀伊半島南東沖の地震による地殻変動および余効変動の影響は取り除いている。
・２００４年１０月２３日に発生した新潟県中越地震による固定点大潟の地殻変動の影響は取り除いている。
・２００７年３月２５日に発生した能登半島地震による固定点大潟の地殻変動の影響は取り除いている（水平成分のみ）。
・２００７年７月１６日に発生した新潟県中越沖地震による固定点大潟の地殻変動の影響を取り除いている（水平成分のみ）。
・浜松（93054）は２００８年８月２５日、豊橋（93056）は２００８年８月２４日に、それぞれ観測を終了した。

国土地理院

近畿・中国・四国地方



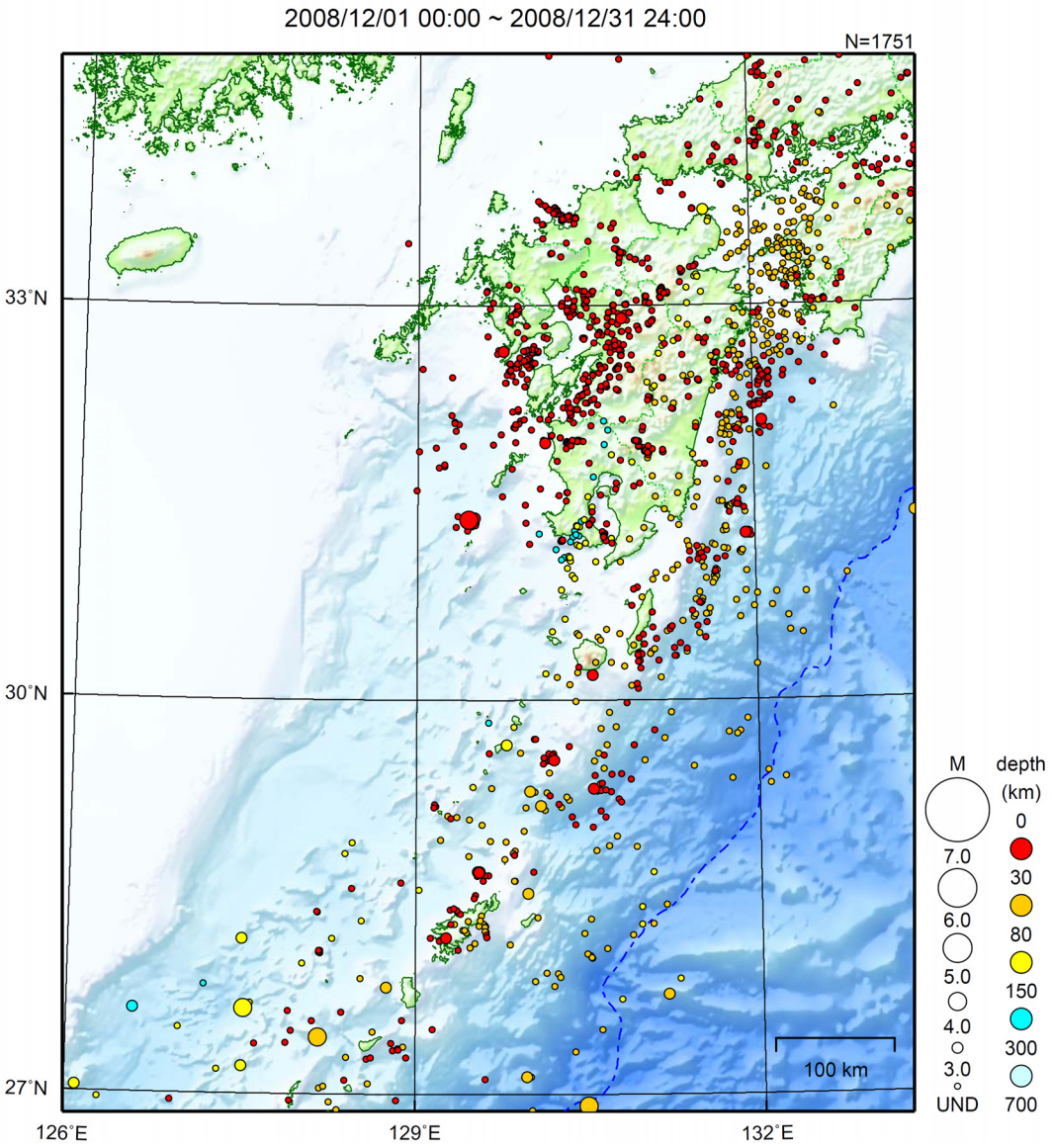
地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOPO30、及び米国国立地球物理データセンターの ETOPO2v2 を使用

特に目立った活動はなかった。

［上述の地震は M6.0 以上または最大震度４以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度３以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度３以上のいずれかに該当する地震。］

気象庁・文部科学省

九州地方



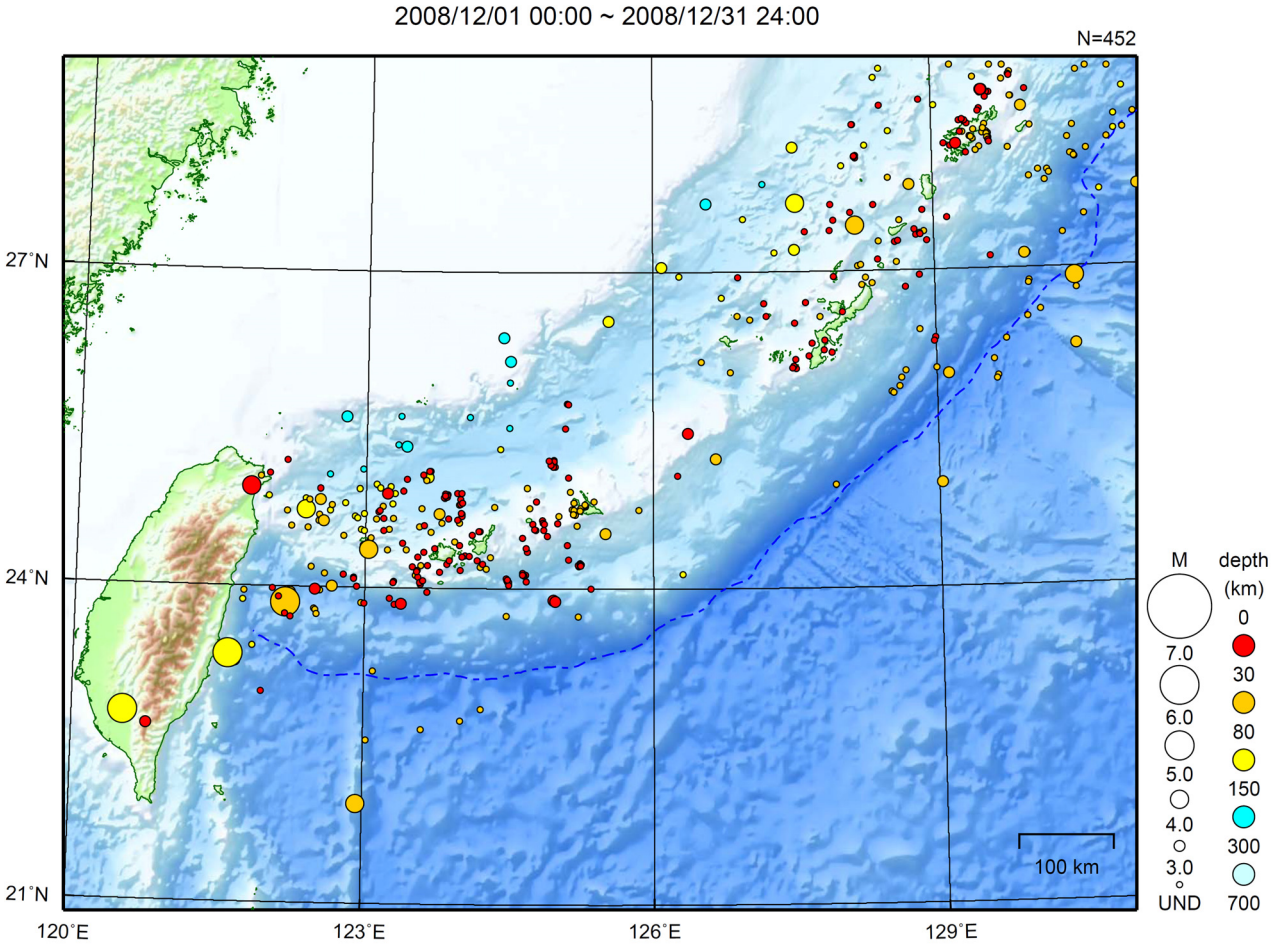
地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOPO30、及び米国国立地球物理データセンターの ETOPO2v2 を使用

特に目立った活動はなかった。

［上述の地震は M6.0 以上または最大震度４以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度３以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度３以上のいずれかに該当する地震。］

気象庁・文部科学省

沖縄地方



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOPO30、及び米国国立地球物理データセンターの ETOPO2v2 を使用

特に目立った活動はなかった。

［上述の地震は M6.0 以上または最大震度４以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度３以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度３以上のいずれかに該当する地震。］

気象庁・文部科学省

１月４日　ニューギニア付近の地震

平成 21 年（2009 年）１月４日 04 時 43 分（日本時間）ニューギニア付近（インドネシア）でマグニチュード 7.6（体積歪計の記録から推定したモーメントマグニチュード、以下モーメントマグニチュードを Mw と表記＊）の地震が発生した。また、同日 07 時 33 分（日本時間）にほぼ同じ場所で Mw7.4（米国地質調査所［以下 USGS と表記］によるモーメントマグニチュード）の地震が発生した。

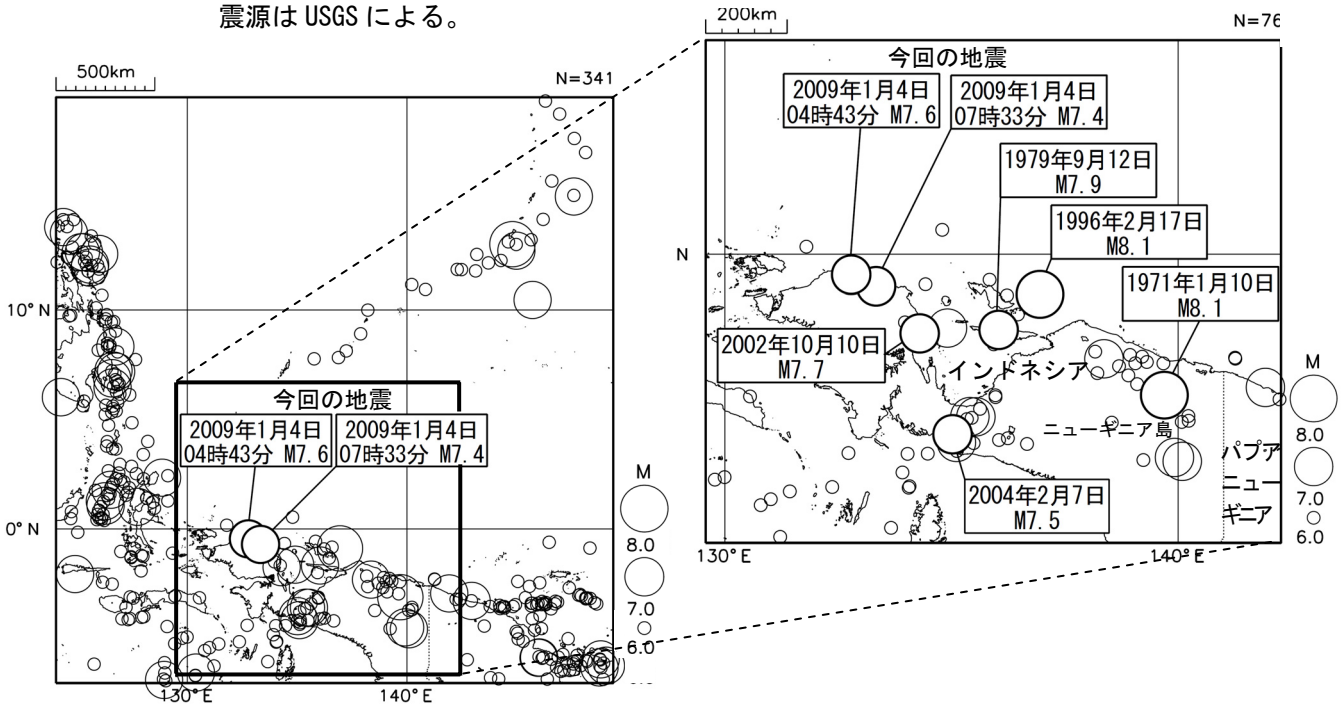
気象庁は、07 時 27 分に「若干の海面変動が予想される」旨の「津波予報（若干の海面変動）」、10 時 08 分に伊豆諸島、小笠原諸島、相模湾・三浦半島、静岡県、愛知県外海、三重県南部、和歌山県、徳島県及び高知県に「津波注意報」、10 時 31 分に宮崎県、鹿児島県東部、種子島・屋久島地方及び奄美諸島・トカラ列島への「津波注意報」を発表した。その後、15 時 45 分に、津波注意報を解除した。

この地震により津波が発生し、伊豆・小笠原諸島、関東地方から九州地方にかけての太平洋沿岸、沖縄県で津波を観測した。津波の最大の高さは父島二見及び和歌山県串本町袋港の 0.4ｍであった。

今回の地震の発震機構（Global CMT 解）は北東－南西方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートとインド・オーストラリアプレートの境界で発生した地震と考えられる。

＊W-phase による Mw、USGS による Mw、Global CMT 解による Mw も Mw7.6

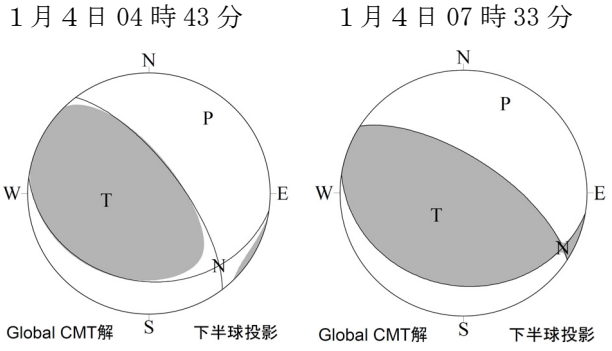
震央分布図（1970 年以降、深さ０～100km、Ｍ≧6.0）
震源は USGS による。



今回の地震が発生した場所は、マイクロプレートを含む複数のプレートが存在する複雑なテクトニクスであると考えられる場所であるが、大きくみると今回の地震の震央の北から北東側に位置する太平洋プレートが、震央の南側に位置するインド･オーストラリアプレートに向かって沈みこんでいる場所である。このような場所では一般にプレートの沈みこむ方向に圧力軸を持つ逆断層型の地震が多く発生する。

今回の地震は両者ともこの特徴に合致する。

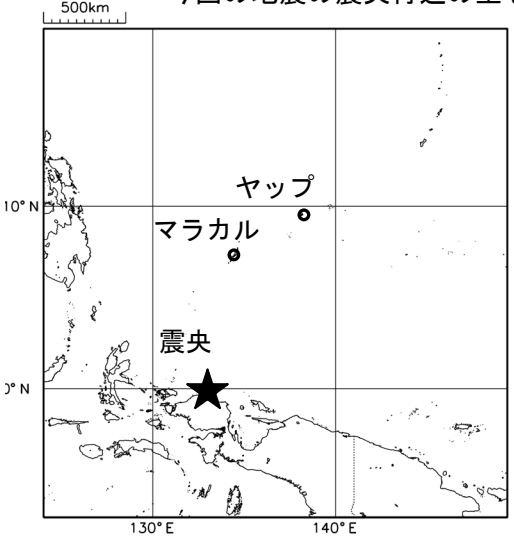
発震機構（Global CMT 解）

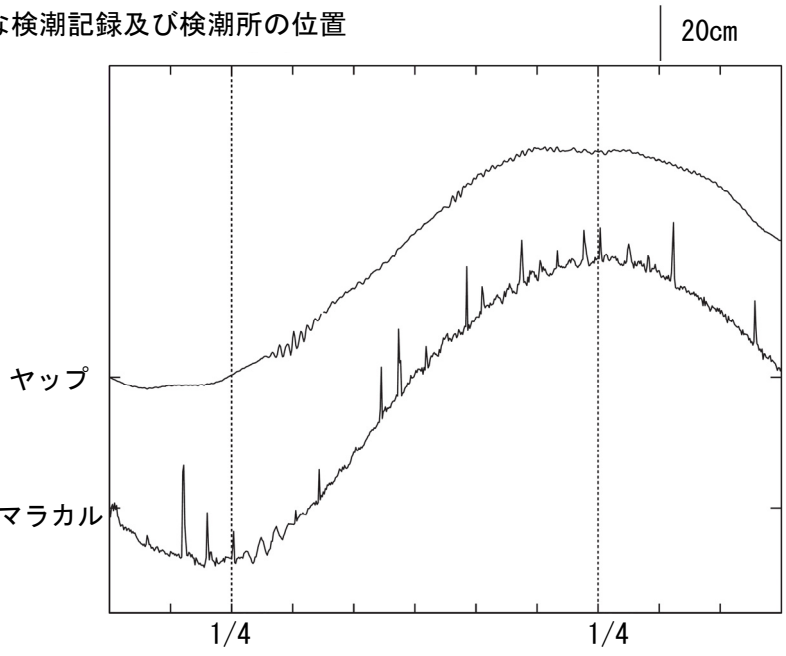


気象庁作成

ニューギニア付近の地震による津波

今回の地震の震央付近の主な検潮記録及び検潮所の位置

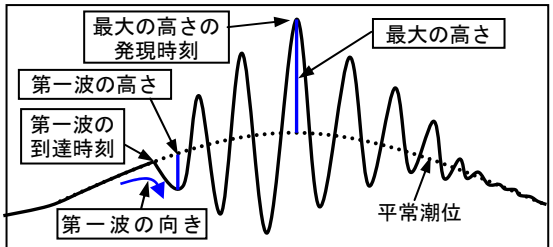




観測した津波（国内）

津波情報発表地点名	第一波		最大波	
	到達時刻	高さ	発現時刻	高さ
神津島神津島港＊1	－	（第1波識別不能）	4日11時34分	0．2m
三宅島阿古＊1	－	（第1波識別不能）	4日14時29分	0．2m
八丈島神湊＊1	－	（第1波識別不能）	4日14時57分	0．2m
父島二見	4日09時13分	＋0．1m	4日09時55分	0．4m
三浦市油壺＊2	－	（第1波識別不能）	4日13時14分	0．2m
沼津市内浦	－	（第1波識別不能）	4日13時48分	0．1m
南伊豆町石廊崎	－	（第1波識別不能）	4日11時48分	0．2m
御前崎	－	（第1波識別不能）	4日15時08分	0．3m
田原市赤羽根	－	（第1波識別不能）	4日14時33分	0．2m
鳥羽	－	（第1波識別不能）	4日13時13分	0．1m
尾鷲	4日10時00分	＋微弱	4日10時45分	0．2m
熊野市遊木	4日09時59分	＋微弱	4日11時53分	0．3m
那智勝浦町浦神	4日09時51分	＋微弱	4日10時20分	0．2m
串本町袋港	4日09時48分	＋0．1m	4日12時14分	0．4m
和歌山	－	（第1波識別不能）	4日15時14分	0．1m
御坊市祓井戸	4日10時16分	－0．1m	4日13時58分	0．2m
白浜町堅田	4日10時00分	＋微弱	4日14時27分	0．1m
小松島	4日11時00分	－微弱	4日14時42分	0．1m
徳島由岐	4日10時02分	＋微弱	4日12時53分	0．3m
室戸市室戸岬	4日09時58分	＋0．2m	4日13時23分	0．3m
高知	4日10時17分	＋0．1m	4日15時16分	0．2m
土佐清水	4日09時50分	＋0．1m	4日14時42分	0．2m
須崎港＊3	4日10時05分	＋0．1m	4日14時14分	0．3m
日向市細島＊4	4日09時37分	＋微弱	4日10時38分	0．1m
日南市油津	4日09時41分	＋0．1m	4日14時44分	0．2m
宮崎港＊3	－	（第1波識別不能）	4日14時15分	0．2m
南大隅町大泊＊1	4日10時09分	＋0．1m	4日11時40分	0．3m
種子島西之表＊1	－	（第1波識別不能）	4日11時37分	0．2m
種子島熊野	－	（第1波識別不能）	4日11時23分	0．3m
中之島＊1	－	（第1波識別不能）	4日13時27分	0．2m
奄美市小湊	－	（第1波識別不能）	4日09時38分	0．3m
石垣島石垣港	4日08時34分	＋微弱	4日10時22分	0．1m

＊マラカルの検潮記録の鋭いピークはノイズと考えられる。



（参考）津波の測り方の模式

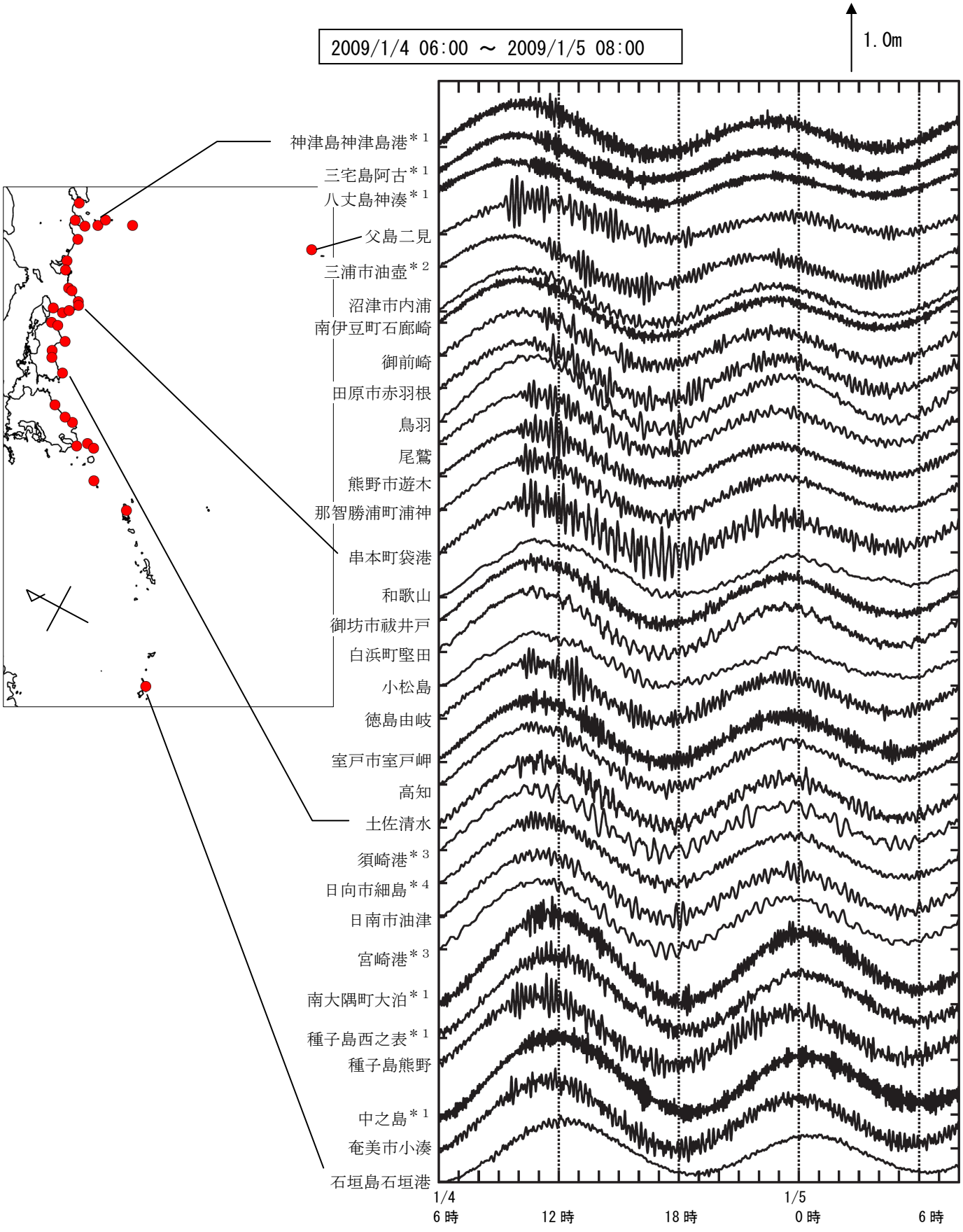
津波の観測値の測り方を示す。第一波の向きは、下方向が「引き（－）」、上方向が「押し（＋）」となる（上の例の場合は「引き」となる）。

＊１は海上保安庁の観測点
＊２は国土地理院の観測点
＊３は国土交通省港湾局の観測点
＊４は宮崎県管轄の観測点
である

※値は速報値であり、後日変更されることがある。

気象庁作成

今回の津波の検潮記録（国内）



*1：海上保安庁の観測点　*2：国土地理院の観測点　*3：国土交通省港湾局の観測点　*4：宮崎県管轄の観測点

気象庁作成